

令和2年度 佐野高等学校・佐野高等学校附属中学校 運営方針・努力点

令和2年4月1日

学校運営方針

*下線部は前年度と異なる部分

高い品性、健やかな心身、豊かな教養と人間性、行動力を備えた、グローバル社会においてリーダーとして逞しく生き抜くことができる志の高い人材を育成する

- 品位と誇りをもった心身ともに「逞しい」生徒を育成する。
- 中高一貫教育校の強みを活かし、魅力ある学校づくりに邁進し、県南地区の中核的な進学校の位置を確固たるものとしていく。
- 生徒一人一人の自ら意欲的に学ぼうとする意欲を高めつつ、論理的に思考する能力を育むことができるよう、日々の授業の改善に組織的に取り組む。
- 望ましい学級集団づくりに努め、集団の良さを生かしながら、活力あふれる教育活動を実践し、生徒一人一人に対し、協働して課題を解決できる力の育成に努める。
- 地域等と幅広く連携を図りつつグローバル教育を全校体制で推進し、保護者、地域等から信頼され期待される学校づくりを推進する。

努力点

- 1 SGH活動の組織的な実践とポストSGH体制（令和3～7年度までの5年間）の構築**
 - ・ SGH指定の最終年度となることから、これまでのグローバル教育の検証・改善を踏まえ、SGH後の在り方（ポストSGH構想）を策定し、令和3年度に入学する中高の生徒募集に反映させる。
 - ・ 新学習指導要領に対応する教育課程編成を進めるとともに、カリキュラムマネジメントの観点から、ポストSGH構想と連動した、中高一貫教育で育成する資質・能力の育成を目指したグランドデザインを構築する。
- 2 生徒の学力・進路保証**
 - ・ 中学校の段階では、学ぶ楽しさを味わわせるとともに、自ら学ぶ学び方を身に付けさせる。
 - ・ 高等学校段階では、中学校における学習意欲・習慣を基盤として、わかりやすい授業、楽しい授業の一層の推進を図り、中位層の厚い学習集団を作り上げる。そのため、各教科において、効果的なアクティブラーニングの導入などにより、学習意欲を高め、学力向上に繋がる指導方法を研究・実践する。
- 3 中高一貫教育校のメリットを生かすために（中高接続における課題解決に向けて）**
 - ・ 各教科において、教科指導の系統性、継続性を最大限に生かし、指導効果を上げることができるよう、中高の連携の一層の推進を図る。
 - ・ 校務分掌においては、基本的に中高一体で業務を行うものとし、業務の効率化・省力化に向け、一層の研究を進める。
 - ・ 部活動、生徒会活動、委員会活動においては、一体とした指導を目指すことを基本としつつ、競技等の特性や発達の段階を十分に踏まえ、適切に一体化や個別化を図ったり、教員の専門性を生かした部活動顧問の中高間の相互乗り入れを行ったりするなど、活動・指導の在り方を工夫する。
- 4 受験倍率の向上を目指して**
 - ・ 中学校・高校ともに、学校公開、HPの充実（日常の授業の取り組みなどを定期的に紹介する）等を通じた広報活動を一層充実していく。中学校では受検倍率3倍、高校では受検倍率1.2倍を目標とする。
 - ・ 高校の入学者選抜の在り方、中高一貫教育の在り方について検討する。
- 5 課題のある生徒へのきめ細やかな援助のため**
 - ・ 普段からの生徒観察や面談等により、学校不適應などの課題のある生徒をいち早く把握し、直ちに管理職との情報共有を図る。その後、状況に応じてSCや外部機関との連携を行う。
- 6 教職員の指導力の改善・向上**
 - ・ 本校における特色ある教育活動及びSGHに関わる教育活動を効果的に実践していくため、アクティブラーニングを始めとした指導法等の校内研修を充実させる。
- 7 教職員の働き方改革に向けて**
 - ・ 上記1～6の努力点を実現するためには、心身ともに健康でやりがいを持ちながら業務にしっかり取り組む必要がある。そのためまず一人一人の教員が勤務時間を意識した働き方を重視し、教職員の負担軽減に努める。